

I 学校の概要

キャリア教育モデル校事業 観音寺市立豊浜中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
2学級 55名	2学級 60名	2学級 50名	学級 5名	学級 170名

○教員数 19名

◆学校の特徴

校区内の保育所、幼稚園、小学校、中学校がそれぞれ一施設であり、生徒の人間関係が固定される傾向にある。また、地域的に伝統を重んじる反面、変化を恐れる傾向にある。そのため、新たな自分を実現させようとする意欲や自己と他者との「人間関係形成能力」が低い。

また、キャリア教育を高等学校への進学と捉えている生徒、教員がほとんどであり、発達段階に応じた社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の必要性がある。

II 研究主題等

研究主題

未来を見つめ、自己の生き方を主体的に選択できる生徒の育成

ー実質的なキャリア教育の実践とキャリアパスポート活用の工夫を求めてー

◆研究主題設定の理由

教員も生徒も、キャリア教育を進路指導に、進路指導を高等学校への進学と捉えている傾向があり、社会への接続や職業を通して未来を創り上げていこうとする視点に乏しい。

校区内の保育所、幼稚園、小学校、中学校がそれぞれ一施設であり、生徒の人間関係が固定される傾向にある。そのため、新たな自分を実現させようとする意欲や自己と他者との「人間関係形成能力」が低い。

観音寺市教育委員会から提示されるキャリアパスポートについて、その記録・蓄積・活用の方法を共通理解し、生徒のキャリア教育に生かされるように着手したい。

◆研究内容及び方法

- 1 「教室と社会を結びつける」各教科の授業におけるキャリア教育の推進（社会参画、自治的能力）
各教科における学習内容を実社会で活用させる場面を想起させながら指導するとともに、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする態度を養う。
- 2 「体験と学びを結びつける」キャリア教育の要としての特別活動の再編成（人間関係、社会形成能力）
一人一人に役割を与え、「合意形成」や「意思決定」を繰り返すことにより、「人間関係・社会形成能力」

を高めさせる。そして、各活動を通して得られた「新しい自分の発見」を向上心に結びつくように、特別活動の年間計画を見直す。

3 「過去と未来を結びつける」 現在進行形のキャリア・パスポートの充実

自らの学びのプロセスを記述したり振り返ったりすることにより、長期的なポートフォリオを作成させる。その際、キャリア・カウンセリングとして教員が生徒一人一人に関わることにより、キャリア形成を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

◆指標設定と達成に向けた取組

III 研究実践

1 (生徒質問紙) 学習活動と自分の将来とのつながりを感じることがありますか。

指標 「①はっきり感じる+②はっきりではないが感じる」の合計



指標の達成に向けた実践 (合意形成・意思決定を含む学習過程の実践)

(1) 新生徒会役員の公言の実施

生徒会選挙の公言を実現させるために、各々が企画 (担当教員はサポートするのみ) することにより社会参画、自治的能力を養うことを目的とした。

(2) 生徒会役員自らが提案した企画

① 清掃ボランティア活動

全校生徒からボランティアを募集し、早朝に運動場の草ぬきを実施した。

② あいさつ運動

あいさつボランティアを募集し、正門や玄関であいさつ運動を実施した。



③ 医療従事者へのメッセージ

地域の施設 (豊浜荘、わたつみ苑、三豊総合病院) に全校生徒が書いたメッセージボードを届ける企画を計画している。

④ シトラスリボン運動

現段階ではまだ企画中である。

(3) 体験活動

今年度はコロナ禍で交流活動は十分ではなかったが、できるかぎりの活動を実施した。

① 2年生の職場体験学習に替わる「仕事に関する講座」

例年、2年生で実施している職場体験学習が今年度は中止になったため、その代替学習として穴吹カレッジから講師を招き、感染症対策をとりながら、「仕事に関する講座」で「仕事」について講話をしていただいた。



② 3年生の香川西部養護学校・わたつみ苑との交流に替わる「講演会」

例年、3年生で実施している「香川西部養護学校とわたつみ苑との交流」では、香川西部養護学校とわたつみ苑から講師を招き、お互いの理解や地域の福祉保健施設が果たす役割などを学んだ。学習後、香川西部養護学校とはお互いの生徒の様子をパネルで紹介した。わたつみ苑にはプレゼントを贈呈した。



③ 全校生で取り組む「小中合同町内清掃」

毎年6月の全校生と小学6年生との「町内清掃」は、学校を離れての「社会貢献活動」である。今年度は11月に縦割りのグループを編成して、国道11号線の沿道を清掃した。地域の方々から感謝されている。



2 (生徒質問紙) 話し合っただけのことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。

指標「①ある+②どちらかといえはある」の合計



指標の達成に向けた実践 (合意形成・意思決定を含む学習過程の実践)

生徒主体の運動会の実施のため、生徒会が運動会のすべての種目を提案

運動会のテーマを全校生徒から募集し、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施できる種目を生徒会で考え、提案した。

① 運動会テーマの募集

全校生徒からテーマを募集し、「3密避けても心は密に」のテーマに決定。美術部が横断幕を作成した。



② 種目の提案

密を避ける競技を選定。

3 (生徒質問紙) 将来の夢や目標をもっていますか。

指標 「①ある+②どちらかといえばある」の合計



指標の達成に向けた実践

キャリアパスポートを活用し、各教科・特別の教科道徳及び総合的な学習の時間との連携を意識した特別活動の工夫

学年目標や学級目標を観点として、年度末に目標について1年間を振り返る。キャリアパスポートを活用し、長期的なポートフォリオを作成させることでキャリア形成を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

◆特徴的な取組

- 1 生徒主体の学校行事の実施
生徒会が中心となって、行事の内容を協議し、教員にサポートを求める。教員はサポートに徹することで社会参画、自治的能力を養う。
- 2 生徒会役員の公言の実施
生徒会選挙の際の公言を実現させるために生徒会役員自らが提案し、企画する。「体験と社会を結びつける」社会形成能力を養う。

IV 研究の成果と課題

今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のために休校を余儀なくされたことや、学校再開後も活動が制限されたことなどにより、思うような活動ができなかった。しかし、2か月近くの休校校や制限された活動の中でしか考えられないことや、できなかったことがあったように思う。

- 休校中に感じたことや再開後にできたことを、書き留めたことにより今後生かせることができるのではないかと。
- 行動が制限されたからこそ生徒会が新しい取組に挑戦できた。
- 学校の取組として「香川の教育づくり発表会」での発表ができなかった。
- 今年度は校外での活動が制限されたため、「教室と実社会を結びつける」という取組が十分でなかったため、課題を整理し次年度に取り組みたい。

1 研究主題

未来を見つめ、自己の生き方を主体的に選択できる生徒の育成
～実質的なキャリア教育の実践とキャリアパスポート活用の工夫を求めて～

2 研究の具体

合意形成・意思決定を含む学習過程の実践

スローガンの作成(3密避けても心は密に)

- ・全校生徒に募集をかけて選定
- ・美術部が作成



生徒主体の運動会の実施

- ・生徒会が中心になって内容を協議
- ・密を避ける競技を選定
- ・感染症対策をとりながらの競技



新生徒会役員の公言の実施

- ・生徒会選挙の際の公約を実現させるために生徒会役員自ら提案



人間関係形成

社会参画

自己実現

- ・行事ごとにアンケートを実施(実態把握)
- ・行事の改善点を話し合う(行事の見直し)

キャリアパスポートの扱い方の確認

- ・3学期末に振り返りの作成
- ・次年度へ持ち越す(3年生は進学先へ)

3 研究の検証及び改善の手立て

- 11月の県状況調査の生徒質問紙「話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」の質問に対して94%が肯定的な回答をしたことが合意形成・意思決定を含む学習過程の実践の成果となったようである。
- 今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のために取組が制限された。本校では1年間でなく、数年単位の計画で取組を立て直したい。加えて、「教室と実社会を結びつける」社会形成能力の育成に取り組んでいきたい。